

静岡

伊豆縦貫自動車道 天城北道路が開通

さまざまな地学現象を経て形成された伊豆半島は500m~1,000m級の山々が連なり、三方は海に囲まれている。この急峻で変化に富んだ景観を活かし、多くの観光施設や魅力的な温泉、新鮮な海の幸や郷土料理等を目的に古くからリゾート地として愛されてきた。

近年、伊豆を巡る社会的な環境は大きく変化しており、平成27年7月に伊豆の国市韮山反射炉の世界遺産登録、平成30年1月に三島市源兵衛川の世界水遺産登録、平成30年4月に伊豆半島ユネスコ世界ジオパークの登録が行われた。また、伊豆ペロドローム(伊豆市)では2020年東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技会場となることが決定し、さらに注目を集めている。

国土交通省が整備を進めている伊豆縦貫自動車道は沼津市と下田市を結ぶ延長約60kmの高規格幹線道路で、伊豆地域への高速交通サービスを提供し、渋滞緩和や災害時の緊急輸送路の機能確保、観光振興の支援等が期待されている。

平成31年1月26日、伊豆縦貫自動車道の一部をなす天城北道路が開通した。天城北道路は伊豆半島の南北軸交通を担う延長6.7kmの自動車専用道路である。平成20年に修善寺IC~大平IC間(約1.6km)が開通し、今回、大平IC~月ヶ瀬IC間(約5.1km)の開通により待望の全線開通となった。

今回の開通により天城北道路を含む伊豆縦貫自動車道の利用に加え、伊豆中央道や国道136号バイパス、修善寺道路を利用することで、東名高速道路沼津IC~中伊豆地域間の所要時間は伊豆縦貫自動車道整備前の約1時間から約30分に半減した。さらに今回天城北道路と同時に開通した国道136号下船原バイパスを利用することで西伊豆方面への時間短縮も期待される。

天城北道路の整備効果はこうした時間短縮効果だけでなく、観光客の増加、新規の企業立地や雇用の増加、災害時の防災機能強化等のストック効果(整備された社会資本が機能し、継続的に発揮される生産性向上等の効果)が期待される。

伊豆縦貫自動車道の一部である東駿河湾環状道路の開通前、伊豆地域北部の観光来訪者数は年間400万人であったが、開通後は年間1,200万人と約3倍に増加した。天城北道路の開通により伊豆半島へのアクセス性が向上し、観光交流の一層の拡大が期待される。

東駿河湾環状道路や天城北道路の沿線には、観光施設や飲食施設、工場等が新規に進出している。道路の整備により、企業立地が進み、伊豆地域の雇用機会創出に寄与している。伊豆地域北部の有効求人倍率を開通前後で比較すると0.5ポイント上昇している。

そのほかにも災害時の防災機能強化や救急医療の支援などのストック効果も期待される。

こうした効果は、道路整備だけでなく、先に述べた伊豆を巡る社会的な環境の変化の影響や地域の取組等と道路整備の効果が相まって発現しているものである。

現在、伊豆縦貫自動車道の河津下田道路が事業中であり、天城北道路と河津下田道路を結ぶ残りの区間についても調査を進めている。将来的には伊豆縦貫自動車道の全線開通により伊豆地域の益々の発展が期待され、伊豆半島南部までの快適なドライブが楽しめる日が来ることを期待したい。



開通後の天城北道路。
天気の良い日は富士山を望むことができる